



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2023年11月06日 第1141号「週刊五十嵐レポート」

伊豆大島、シカ(キョン)に悩む

11月4日付日経新聞夕刊、「キョン被害悩む伊豆大島」という記事。伊豆大島(東京都大島町)の住民が、シカ科の特定外来生物「キョン」による特産品明日葉の食害や鳴き声に頭を悩ましている。強い繁殖力に捕獲が追い付かず、一時は約7千人いる人口の3倍近い推定2万匹まで増加。東京都は毎年10億円近い予算を投じ、搜索にドローンを導入するなど根絶に取り組む。

東京都は2007年から捕獲を開始。年間千匹弱を捕まえたが、年に1.2倍増える。生息数(推定)は06年の約4500匹から19年には約19,500匹に達した。網や籠のわななどを広範囲に設置し、柵で区切ったエリアで複数のハンターがキョンを追い込む手法も取り入れた。生息数は減少に転じたものの、昨年末時点でまだ17,000匹がいる。今年10月からは、大手警備保障会社に委託してドローンでの搜索を開始、赤外線カメラで草むらに隠れたキョンの熱源を上空から探知しハンターに場所を伝える。毎月一週間ほど実施予定。

似たような話を聞いたことがある。1700年(江戸時代)、長崎の対馬で9年かけて8万頭の猪を全滅させた陶山訥庵の戦略。その戦略とは、対馬(島)を9つに分けて、山の尾根に沿って万里の長城のように柵(高さ1.8m)を打つ(これを大垣という)。次に大垣の中を小さい柵(これを内垣という)を打ち、いくつもつくる。まず一つの内垣を集中して猪を攻撃し部分全滅させ、次に一つひとつ内垣を潰していく。一年で一つの大垣全域の猪を部分全滅。9つある大垣内の猪を毎年一つずつ潰していき、9年後に猪を全滅させた。

この陶山訥庵の戦略は、経営における地域戦略に応用している。市場を広い全域を考えると、打つ手がぼやけてしまう。営業の範囲と重点地域を決めて、そこから着手する。一点集中すると成果が出やすくなる。全広域を漫然と営業すると力が分散して成果が出にくい。

キョン退治も16年経っている。それでも全滅していない。戦略があるかないかが見える。ドローンなど文明の利器はあるが、あくまで道具。「戦略なき経営は無駄が多い」と同様。陶山訥庵の戦略は、「分断・細分化」→「一点集中」→「部分制圧」→「個別撃破」→「全体制圧」。

ちょっと
気になる出来事

11月3日付日経新聞、「富士急系、軽EVタクシー2台導入 女性運転手獲得図る」という記事。

富士急グループの甲州タクシー(山梨県甲州市)は軽電気自動車(EV)タクシー2台を導入。女性のパート運転手2人も新規採用。

高齢化と人口減少で運転手不足が続く、地方在住の女性の多くは普段軽自動車を運転している。それらを活用して女性運転手を獲得する。

日中5時間のパート勤務。主に地元の高齢者の通院や買い物などの送迎を担当する。地方はタクシー運転手が不足している。高齢者などは移動手段を確保しにくい。環境を整備して女性運転手を増やして地域の足を確保する。タクシー業界はコロナ禍で運転手が減少。コロナが終わっても完全に戻っていない。

日中5時間というと10時~16時ぐらいか。この時間帯であれば、主婦の人達も時間が作れる。同じ山梨の大手牛乳配達会社は日中5時間で女性たちが車で牛乳を配達している。



一口メモ
知識

飲食宴楽(えんらく)

雲の天に上るは需(じゅ)なり。君子もって飲食宴楽(えんらく)す。
(水天需(すいてんじゅ))

雲が天にあって、もうすぐ待望の雨が降る。それを待つ間は、酒食に呆けるのではなく、焦らずに楽しみながら悠々と待つことである。

そのためには、リーダーたる者は常に需要を満たしておくことが肝心。不況や干ばつ時でも十分な蓄えをしておけば、飲食に困らずに状況の変化を俟つことができる。

水天需(すいてんじゅ)は「需(ま)つ」「待つ」こと、そして飲食の道を説く卦。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

